

保全対象別の基礎情報（海山）

保全対象：海山

保全対象の概要	海山は海洋底から比高 1000m 以上の円錐形を成す高まりの地形であり、光合成を基盤とした生態系。固着性生物の基盤を有し、種の多様性や生産性も高い場所もある。攪乱には脆弱である。
我が国周辺の分布特性	我が国には多数の海山が存在する。特に、伊豆・小笠原・マリアナ弧における七島・硫黄島海嶺、その西方の西七島海嶺、四国海盆中央の紀南海山列、そして九州パラオ海嶺には多数の海山が連なる。
重要海域	重要海域 No.303、304、306～308、310、312～321、326、328、330 など（海山を含む重要海域）
保全対象としての特徴	<地形> ・海山はプレートの沈み込み等によって海底火山が発達することで形成される比高 1000m 以上の円錐形を成す高まりの地形。 <生態系> ・海山は、光合成基盤の生態系であり、基底部から山頂まで水深、地形の変化があり、冷水性サンゴ類等の固着性生物の基盤を提供する。 ・その他の同じ水深帯の生物群集とは異なる生物群集構造を持つ。地理的に狭い範囲に隔離されているが幼生分散などで他の海山と踏み石的に連続性が保たれているといわれている¹。 ・固着性生物が他の種の生息場所を提供するため、種の多様性が高い場所もある。また、湧昇流により生産性が高くなる海山もある。 <生物相> ・冷水性サンゴ類、ヤギ類、カイメン類などの固着性の懸濁物食の種が多い。多くの種が低成長であるため人為的攪乱には脆弱であり、攪乱を受けると回復が難しい。 ・複雑な地形や水深に応じて生物相が変化する特徴がある。キンメダイ等の有用魚種も生息する。 <人間活動の状況> ・水深 500m 程度まででは底びき網漁業等が行われている可能性がある。 ・一部海域では、宝石サンゴ漁（ひき網、桁網、水中ロボットによる採取）が行われている可能性がある。 ・コバルトリッチクラストが分布する海山では、将来鉱物資源開発があり得る。

¹ Rowden et al., (2010)

保全上の留意点	＜保全対象の構成、ゾーニングの考え方等＞ ・我が国周辺の沖合域には海山列、海山群が特定の海域に集中的に存在するもの、独立峰のようにスポット的に存在するものがある。 ・海山に生息する種は、幼生分散により他の海山へ生息地を拡大する（遺伝的交流を行う）など生活史の一部/全部にわたって広い範囲を利用しているため¹、海山が特定の海域に集中して存在する場合は、複数の海山を面的に保全する意義がある。 ・ただし人間活動との調整が求められる場合など、単一の海山を保全対象としてみることもできる。その場合には、水深や底質（基質）により生物相が異なるため²海山の基部から山頂まで多様な環境を含む保全に留意することが考えられる³。 ・特定の海山（海嶺）はアナゴ⁴やニホンウナギ⁵などの有用魚種の産卵場や、産卵場までの重要なルートとして利用されている。 ＜海外の海洋保護区の例＞ ・フオン連邦海洋リザーブ（オーストラリア, 2007 年）では、多目的利用ゾーン（9602km²（右図：青の範囲）と生息地保護区（3892 km²（右図：黄色の範囲）に分け 70 ほどの海山のうち、13 の海山をまとめて面的に保全している。管理計画に基づく活動を除き、リザーブないの固有種の殺傷、採取、取引、及び掘削活動等は原則禁止。 ・海底保護区域 BPA（ニュージーランド, 2007 年）では、海山における生物資源の保存、生息地の保護等を目的に 17 箇所の海山において漁業が禁止され（青の範囲）、また海山に限らず、海底から 100m の範囲ではトロール漁禁止の区域（120,000km²: 赤い範囲）も設定されている。
----------------	--



² 小澤ほか, 2004

³ 専門家ヒアリングによる（平成 27 年度沖合域の生物多様性保全に係る調査分析業務報告書）

⁴ 九州・パラオ海嶺に産卵場があるとされる（Kurogi et al, 2012; 黒木ほか, 2012）.

⁵ 伊豆、小笠原・西マリアナ弧が産卵ルート想定されている Tukamoto, 1994, 2006; Chow et al, 2009